

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名		小児看護学概論			
教育内容	専門分野 小児看護学	履修年次	1年次	履修時期	11月～3月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	小児看護領域臨床実務経験あり		
科目目的	小児の保健医療の動向を学び、小児各期の特徴や小児看護の役割を理解する。				
学習目標	1. 小児に関連する保健医療の動向を学び、子どもと家族を取り巻く環境について理解する。 2. 子どもの成長・発達の特徴について理解する。				
授業計画	回	授業内容			授業方法
	1	1. 小児看護の目指すところ 1)小児看護の対象 2)小児看護の目標と役割 2. 小児看護における倫理			講義 グループワーク
	2 ・ 3	1. 小児と家族の諸統計 2. 小児看護の変遷 3. 小児看護の課題 4. 子どもの成長・発達 1)成長・発達とは 2)成長・発達の進み方 3)成長・発達に影響する因子 4)成長の評価 5)発達の評価			講義 DVD視聴
	4～7	小児各期の成長と発達 ・新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期			講義 DVD視聴
	8	子どもの栄養			講義
	9	家族の特徴とアセスメント			講義
	10～ 12	子どもと家族を取り巻く社会 1. 児童福祉 2. 母子保健 3. 医療費の支援 4. 予防接種 5. 学校保健			講義 グループワーク
	13・14	発表			グループワーク発表
	15	試験			
	使用教材	系統看護学講座 専門分野 小児看護学①小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院			
参考文献	1. 小児看護学概論 子どもと家族に寄り添う援助 改訂第2版 江南堂 2. 新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論 小児保健 メヂカルフレンド社 3. ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版				
成績評価の方法	筆記試験 100点				

科目名	小児看護学援助論 I (疾患に応じた看護)				
教育内容	専門分野 小児看護学	履修年次	2年次	履修時期	前期
単位(時間数)	1単位(15時間)	講義時間	14時間	試験時間	1時間
担当教員	医師	実務経験	小児科医師		
科目目的	小児期に特有な疾病をもつ子どもの看護を理解する。				
学習目標	小児期に特有な疾病と治療について理解する。				
授業計画	回	授業内容			授業方法
	1 5 14	I. 小児臨床総論 II. 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 1.染色体異常(ダウン症候群) 2.性染色体異常 III. 新生児の異常 1.低出生体重児の疾患(呼吸窮迫症候群) 2.新生児仮死 3.新生児の黄疸 IV. 系統別疾患 1.代謝性疾患 2.内分泌疾患 3.免疫・アレルギー・リウマチ性疾患 気管支喘息 4.呼吸器疾患 急性咽頭炎、クループ症候群、気管支炎、肺炎 5.循環器疾患 心室中隔欠損、動脈管開存、心房中隔欠損、ファロー四徴症 完全大血管転位症、川崎病 6.消化器疾患 食道閉鎖症、ヒルシュスプルング病、鎖肛、腸重積症 胆道閉鎖症 7.血液造血器疾患 特発性血小板減少性紫斑病、血管性紫斑病 8.悪性新生物 白血病、神経芽腫、ウィルムス腫瘍 9.腎・泌尿器および生殖器疾患 ネフローゼ症候群 10.神経疾患 11.運動器疾患 V. 小児特有の感染症 ・細菌感染症 ・ウイルス感染症 ・真菌感染症			講義
	15	試験			
使用教材	系統看護学講座 専門分野 小児看護学① 小児臨床看護各論 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験				

科目名		小児看護学援助論Ⅱ(生活援助技術、症状別看護)			
教育内容	専門分野 小児看護学	履修年次	2年次	履修時期	後期
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員 看護師	実務経験	小児看護領域臨床実務経験あり		
科目目的	小児の健全な成長・発達を促進するための援助方法や症状に応じた看護について理解する。				
学習目標	1. 各成長発達段階に応じた養育および看護について理解する。 2. 疾患や入院が子どもと家族に及ぼす影響について理解する。 3. 小児期に特有な疾病とその症状に応じた看護について理解する。				
授業計画	回	授業内容			授業方法
		単元:生活援助 担当:専任教員 ※講義のガイダンス			
	1	1. 新生児期の養育および看護 1)日常生活の世話 2)事故防止 3)感染防止 4)家族関係の調整 5)愛着形成			講義
	2	2. 乳児期の養育および看護 1)日常生活の自立と世話(食事・排泄・着脱・睡眠・環境) 2)遊びの支援 3)事故防止 4)乳幼児突然死症候群とその予防 5)育児支援			講義 事例検討
	3	3. 幼児期の養育および看護 1)日常生活の自立と世話(食事、排泄、清潔・衣服、睡眠) 2)遊びと事故防止 3)生活習慣と感染予防 4)育児支援			講義 事例検討
	4	4. 学童期の養育および看護 1)学校生活への適応 2)学習と遊び 3)生活習慣と疾病予防			講義
		5. 思春期の看護 1)二次性徴に伴う援助 2)生活習慣と健康教育 3)性・安全教育 4)親への関わり			
	5	6. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 1)病気・障害が子どもと家族に与える影響 2)子どもの健康問題と看護 7. 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 1)入院中の子どもと家族の看護 2)外来における子どもと家族の看護 3)在宅療養中の子どもと家族の看護 4)災害時の子どもと家族の看護			講義
	6・7	8. 演習 1)生活援助:衣服の着脱、おむつ交換 2)調乳・授乳 3)離乳食体験(ベビーフードの実際)			演習
	8	9. グループワーク * 幼児に向けた感染予防への提示物作成 * 1～2歳児を対象として、手遊びなど(ペープサート)の開発			グループワーク
9	まとめ 1～2歳児を対象とした遊びの発表				

	<p>単元:主要症状別看護 担当:看護師 ※講義のガイダンス</p>	
10	<p>VI. 主要症状別看護 1. 発育期からみるからだと病気 フィジカルアセスメントと方法 2. 一般状態・啼泣の観察ポイント(腸重責症) 3. 痛みのアセスメントと看護(頭・目・鼻・のど・耳・胸・腹・手足など) 薬剤を用いた・用いない看護</p>	講義
11	<p>4. 呼吸・循環器系の症状の観察と看護 1) 症例から観察及び看護のポイントを深める 小児気管支喘息、敗血症</p>	講義
12	<p>5. 発熱の原因と主な疾患の特徴と看護 1) 症例からその特徴を理解する 髄膜炎、脳炎、インフルエンザ、突発性発疹、細菌性食中毒、尿路</p>	講義
13	<p>6. 消化器系の症状を示す小児の看護 7. 水分・電解質異常を示す小児の看護 ・脱水症状となりうる病態と症状 ・脱水のレベルと症状 ・電解質異常と症状 ・ノロウイルス感染症のアセスメントと看護の実際</p>	講義
14	<p>8. 浮腫・血液・貧血を示す小児の看護 9. 神経・筋症状を示す小児の看護 ・けいれんの病態生理 ・各けいれん発作の特徴と対応(強直性発作、間代性発作) 10. その他の症状を示す小児の看護 ・発疹を示す疾患(麻疹、風疹など) ・黄疸のメカニズム、新生児黄疸、光線療法</p>	講義
15	試験	
使用教材	系統看護学講座 専門分野 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院	
参考文献	1. 小林美由紀 これならわかる!子どもの保健演習ノート 診断と治療社 2. 症状からみた小児看護 メジカルビュー社	
成績評価の方法	筆記試験	